



JCOMM 通信

日本モビリティ・マネジメント会議
ニュースレター

Vol.25 ● 2012.9.30

【発行】 JCOMM実行委員会
ニュースレター編集部
【お問合せ】 筑波大学 谷口綾研
大阪大学 松村研

mail: info@jcomm.or.jp

MMに関連する会告掲載希望やご意見等、
随時受け付けております。

日中の日差しも、すっかり柔ら
かくなり、秋の気配が次第に濃
くなってまいりました。今号は、先
日、富山市にて開催された第七回
JCOMMの報告を中心にお届け
します。

イベント報告

第七回JCOMM報告

去る八月三日から五日までの三
日間、富山市富山国際会議場
にて、第七回日本モビリティ・マ
ネジメント会議が開催されました。
皆さまのご協力と地元自治体、企
業のご尽力で無事開催することが
でき、厚くお礼申し上げます。

今回も多くの方にご参加いた
だき、口頭発表十八編、ポスター発
表四十四編と盛況のうちに終了し
ました。参加者数は三八〇名を超
え、過去最大規模の大会でした。
特に今回は市民の方々の参加も多
く、MMとまちづくりが融合した
富山らしい大会になりました。

【会議概要】

八月三日は現地見学会が催され
ました。貸切LRTで岩瀬浜駅ま
で行き、江戸時代に栄えた廻船問
屋森家などを見学したのち、環水
公園まで富岩運河の船旅を楽しみ
ました。四日のプレイベントで
は、開催地である富山市の多様な
主体によって進められているMM
の取り組みの紹介と、LRTがは
しるまち富山におけるMMの展望
についてミニシンポジウムが開
かれました。
続くオープニングセッションで
は、森雅志富山市長から公共交通
を軸としたコンパクトなまちづく
りを一貫して行ってきたこれまで



▲ 写真1 現地見学会の様子



▲ 写真2 口頭発表セッションの様子

の経緯について講演が行われたの
ち、平成二十四年度JCOMM賞
の授賞式が行われました。一日目
のポスターセッションA、口頭発
表（震災とMM、地方でのMM）
を終えた後の懇親会では、富山
の美味しい料理と演奏によいしれ
ながら、様々な意見交換が展開さ
れました。
二日目も「MM教育」「多様な
主体によるMM」「メディアとM
M」「これからのMMの展開た
めに」の口頭発表セッションに加
え、ポスターセッションなど多彩
なプログラムで構成され、MMに
関する様々な議論が交わされま
した。
発表に用いられた資料は、J
COMMのウェブページにて公開さ
れておりますので、是非ご活用く
ださい。

【参加者アンケートから】

参加者アンケート（回答者数：
五十九）によると、昨年に引き続
き、今回も口頭発表の各セッショ

ンが、大変高い人気であることが
示されました。また、開催地企
画・ポスターセッションにおいて
も九割近くの方にご満足いただけ
たようです。

興味のあるMMのテーマに関し
ては、図1のように近年交通まち



▲ 写真3 ポスター発表の様子

さて、第八回JCOMMは、宮
城県仙台市での開催を予定してお
ります。参加者の皆さまからの貴
重なご意見を参考に、よりよい運
営に努めてまいりたいと思いま
す。今後ともどうぞよろしくお願
いいたします。



づくりに非常に高い関心が寄せら
れるようになったことが特徴的
です。また、学校や職場・組織にお
けるMMなどに引き続き興味をお
持ちであることが示されました。

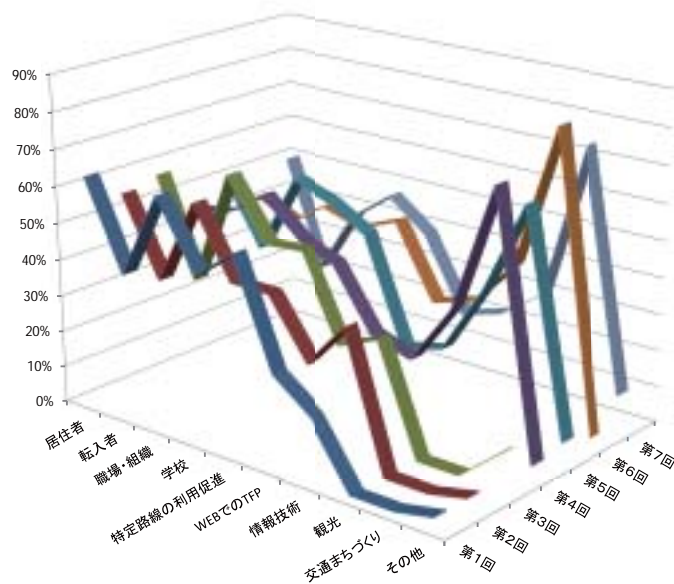


図1 興味のあるMMのテーマの年度比較 (複数回答)

ニッポンのMM

第十九回

子午線のまち
明石のMM

兵庫県明石市は子午線のまちとして有名で、まちなかの魚の棚商店街では明石海峡でとれたタコなど豊富な海の幸をもとめる人で賑わっています。

本市では、公共交通の利用促進を基本とし、時代の変化に即応した誰もが安全で円滑に移動できる交通体系の確立をめざして、平成十九年に「明石市総合交通計画」を策定し、その主要プロジェクトの一つとしてMMの実施を位置づけています。

平成十六年から運行を開始した明石市コミュニティバス(通称Taco(たこ)バス)を総合交通計画にもとづき、あらかじめ運行見直しの基準を決めてから路線拡大し、その基準に沿ってルートや運行内容等の見直しを行うとともに、利便性の向

上策の実施と併行してMMなどによる利用促進を図っているのが特徴です。

JR駅でのバス乗継情報の提供(あかしびじょん)や携帯版時刻表検索システムの整備などによって利用環境を整え、地域に応じたバスマップの配布やエコファミリーや学校の導入、スタンプリヤーや学校MMの実施などによって利用促進を図るだけでなく、月ごとに利用者数を公開するなど現在の状況を市民に伝えるよう心がけてきたこともあって、利用者数は順調に増えています。

また、市西部に位置する二見臨海工業団地では一日五千台のマイカー通勤によるクルマのため、周辺でも渋滞などさまざまな交通問題が発生してしま

た。そこで、団地内の企業、山陽バス、市役所で「エコ通勤を進める会」を結成し、路線バスの増便とMMの実施をあわせて社会実験を行ったところバスの利

JCOMM 法人会員紹介

vol.8 株式会社「ドーン」

株式会社ドーンでは、札幌都心部においてサイクルシェアリングサービス「ポロクル」を事業化するため、二〇一一年四月に株式会社ドーンモバイルデザイン(略称・DMD)を設立しました。

二〇一二年九月現在、サイクルポート四十二箇所、自転車約二百七十台、ユーザー登録数は六千件を上まわり、天気の良い平日の貸出回数は千百回/日を超えるなど、企業や市民、観光客の移動手段として定着しつつあります。

ポロクルは、低炭素社会への貢献、都心部のにぎわい創出、放置自転車問題の減少、自転車利用者のマナー向上など、都市における課題解決に向け、行政・企業・各種団体など多様な主体との協働のもとで様々な活動を展開しています。こうしたことから、ポロクルユーザーへのアンケート調査結果(二〇一一年度)によると、三十四%が「自動車の利用が減少した」、二十七%が「公共交通の利用が増加した」、四十八%が「路上駐輪をしないようになった」と答えるなど、札幌都心における適正な交通モード利用への転換に対して一定の効果が発現し始めて

使用者が五十四%増加しました。実験終了後もさらに利用者が増加し続けており、効果の定着が図られています。

(明石市土木交通部 若間康弘)



写真 Taco (たこ) バス

ドーンコンプレックスは、引き続き地域のプレイヤーとの連携を図りつつ、都市や地域が抱える様々な課題の解決に向けて活動していきたくと考えています。



写真 ポロクルポート

イベント報告

欧州モビリティ・マネジメント 会議報告(その二)

先号に引き続き、去る六月十二日(十四日、フランクフルト市で開催された第十六回欧州モビリティ・マネジメント会議の事例報告です。

チューリッヒの若者向け 公共交通利用促進キャンペーン

スイスの首都チューリッヒでは、二〇〇六年からモビリティ・カルチャーと題した若者対象のキャンペーンを始めました。二〇〇七年に内容をよりかっこよく(クールに)し、二〇〇九年にデザインを一新、二〇一〇年からポスターキャンペーンを開始したとのことです。

このキャンペーンでは黄緑色をテーマカラーとし(写真1)、有名人を起用したポスター(写真2)や、「かっこいい自転車ファッション」のポスター(写真3)を作成している点が特徴です。写真1のキヤッチフレーズは筆者の意訳ですが)

「チューリッヒから? チューリッヒへ?」どちらにせよ、トラムが一番気持ちいい。下の帯には「モビリティは文化です」との標語があります。写真3のかっこいい自転車ファッションは、様々なバージョンがあります。それぞれおしゃべりな人が「自転車好き!」というセリフとともにポスターに収まっています。これを見て、自転車ファッションショーの開催などもウケそうだなあと思いました。

他にも、若者に自転車やトラムはかっこいい!と思ってもらうため、スマートフォンアプリとして公共交通の経路探索システムを作ったり、市内に十二カ所、自転車用のポンピングステーションを設けたりもしているそうです。

既にクルマ利用の強い習慣をもつ年代よりも、若者をターゲットとする方が、もしかすると効率がいいのかもしれませんが。若者のクルマ離れは欧州でも見られるそうですが、こんなキャンペーンで「トラムや自転車はかっこいい!」というイメージができれば、そんな傾向がますます進展しそうです。



写真1 黄緑色のグッズ



写真2 有名人を起用したポスター



写真3 クールな自転車ファッションのポスター

第十七回はスウェーデンのイェブレ市で二〇一三年五月二十九日(三日)に開催される予定です。